

## 「1」と「0」で組み合わせた哲学

宋家宝  
SONG JIABAO

少し考えてください。いま世の中には一番人気のあるSFトピックは何？

人工知能？メタバース？或はブレイン・マシン・インタフェース（BCI技術）のこと？中にはほとんどが情報電気に関することがわかった。情報電気専門の学生として、情報の魅力はずいぶん感じている。道教哲学の陰陽には、陰、陽というお互いに対立するものから「四象」が生まれ、そして「四象」から「八卦」が生まれ、最後に「八卦」から「森羅万象」が生まれる。一方、情報学では、「1」と「0」を使って無数の可能性を構成し、またこれらの可能性によって、「人工知能が意識を持っているのか」などの哲学的なトピックは出て来る。

今年、情報学に関する知識や技術をたくさん勉強した。例えば、プログラミング言語としてのC言語やC++言語、CPU動作を確認するためのマシン語、そして様々なアルゴリズム、形式言語とオートマトンなど。この中には特に「NP問題」が非常に面白いと思う。NP問題とは、ある複雑な問題には、多項式時間（有限的な時間）で答えを探すのは無理だが、与えられた答えがあれば、その答えの正否は検証できる問題と指す。いわゆる、一つの答えが存在する問題だが、その答えは一生にも見つけられない場合、その問題が答えのない問題とすれば良いだろうか。木のてっぺんにいるお雀は空の雲を見ることができが、それは一生のうちに届かない高さで、お雀には雲の存在意義が一体何だろうか。ところで、熊本大学のとなりの竜神橋が好きで、毎回通学の時、遠方の霞

を見ながらこんな哲学的な問題を考えるのは面白いと思う。

「人工知能が意識を持っているのか」について、「意識を持っている」のは意外のこと、つまり関数閉包以外の可能性に属する。数学の厳密によって、私はそれがほぼ不可能だと思う。しかし、ここでなぜ「絶対」ではなく、「ほぼ」を使っているのか？それは私は人が人工知能に与える想像やロマン主義を尊敬するから。想像力と創造性は人間に固有のものであり、科学や文学の発展を促進する一方、文学や科学の発展も私たちの想像力を一層豊かにする。数十年前、カナダの作家ウィリアム・ギブスンが「ニューロマンサー」を執筆したとき、彼は今がBCI技術で麻痺した患者がロボットアームを制御して水を飲むことが可能になることが想像できるのか。私たちが「ソードアート・オンライン」や「プレイヤー・ワン」を見ていた時、VR、AR技術は今メタバースの構築に適用されていることが想像できるのか。このように、AI技術がさらに発展したら、AIがエンジニアが作成された「閉包」から突破できるかどうかことを誰でも予測できない。

お雀は雲の高さに届かないが、翼の無い人間は、今が空を抜けて宇宙へ向かっている。